



◇川島貞雄牧師 追悼号◇

## 神が川島先生を用いられた

高橋克樹牧師

川島貞雄先生が二〇二四年一月三十一日に召されました。先生は一九三四年三月三〇日に江東区東陽町に生まれて、その後一九五〇年に中山真多良牧師と出会い、伝道者となるべく青山学院大学文学部基督教学科に入学し、そこで新約聖書学者の高柳伊三郎教授に出会い、新約聖書学の分野の研究者と牧師としての働きをする道が開かれ、最初の赴任は綾瀬市の大塚平安教会の伝道師でした。同時に青山学院大学の大学院にも進学し、博士課程単位取得後は、当時リベラルな神学校と言われた米国のユニオン神学大学院に一九六三年に留学し、修士号を取得。帰国後は青山学院大学の専任講師・宗教主任となりました。さらに一九六六年には西ドイツのエアランゲン大学神学部大学院に留学し博士号も取得。帰国後は日本聖書神学校の教授に就任し、一九八九年に同校を辞するまで教務部長を長年務められました。

この間も神奈川県の田園江田教会の主任担任教師の代務者を務めたほか、一九八九年に青戸教会の主任担任教師になった後は、会堂建築、教会墓地の建立など青戸教会の礎を築いてこられました。また、青戸教会の主任担任教師になったと同時に東洋英和女学院大学の教授となつて、同大学の大学院設立にも貢献し、二〇一〇年三月には青戸教会を辞して隠退教師となりました。

隠退後も、松戸市の新松戸幸谷教会の礼拝に出席し、その後は豊島岡教会南花島集会所の礼拝に出席され、生涯キリスト者としての信仰生活を全うされたのでした。

川島先生の学問的業績についても、その働きは大きく、私はなかでも、一九八七年に発行された新共同訳聖書の編集に多大なる貢献をされたことが大きな事と考えます。プロテスタントとカトリックの共同作業で従来の口語訳聖書に代わる翻訳事業で実務委員となつて困難な作業を担われたことが大きいと思います。いま、私たちは礼拝において新共同訳聖書を用いているほか、個人の信仰生活においてもお世話になつていっているものです。

以前の口語訳聖書は、文語訳聖書に代わるものとして発行されたものです。当時、信濃町教会の牧師だった山谷省吾牧師が信濃町教会を辞めて3年かけて翻訳したのですが、その際、訳語を統一するために米国で発行予定

だったRSV聖書の草稿を参照して原文から訳したのでした。しかし、日本語も時代と共に変化していくので、一九八五年当時の協会側の要請として、礼拝の中で朗読された言葉を聞いて理解できる日本語にしてほしいという願いがありました。新共同訳聖書が発行された当初は、聖書学者の幾人から批判が出ました。聖書解釈の違いで翻訳が異なってくるため、翻訳においては完全なことはありえませんが、けれども、そうしたことはあらかじめ予想されたことでした。それでも、川島先生はカトリックの堀田雄康神父と新約聖書の訳語の最終調整を行いました。このような仕事は誰もやりたがるものではありません。こういう作業を引き受ける所がいかに川島先生らしいのですが、その背後には神の意志が働いて、川島先生にこの一大事業を成し遂げさせたと考えられないのです。



青戸教会での説教（ご遺族提供）